

近江商人進出地・盛岡の町

今夏、調査の一環で盛岡を訪問し、近江商人の事跡に触れる機会を得た。交通の発達した今日でさえ、滋賀大学から盛岡までは新幹線を2本フルに乗り継ぐだけのウンザリするほどの距離がある。盛岡の歴史をひもとくと、遠く近江の高島郡からやってきた多くの近江商人が得意の商業分野を中心に活躍したとされ、銀行や新聞などの新しい分野でも、近江商人らの手で創立されたものもあつた。町のあちこちに有名な豪商・小野組跡、井弥商店等々、近江商人の進出拠点に単に遺跡として残っているだけではなく、目抜きのお店街を歩くと老舗の本店の名に近江商人ゆかりの固有名詞を多数見出すことが出来る。岩手滋賀県人会の事務所を訪ね、最新名簿を見せていただくと、近江商人のご子孫たちの名前の後ろには遙か百数十年以上も前に何代も遡った先祖の出身地(多くは高島郡)が麗々しく掲げられていた。郷里を離れ遠隔の地に根をおろして活動し、やがて地域発展に大きく貢献するまで興隆を遂げた近江商人の一門が今なお父祖の地を精神的な拠り所とされている様子は感動的であつた。

当史料館にはこうした近江商人の本拠地での史料を多く所蔵しているが、盛岡をはじめ全国に散在する近江商人の進出地での足跡を示す諸史・資料をも各方面のご協力を得て充実させていきたい。

(史料館長 小川 功)